

令和5年度 第3回甲賀市文化のまちづくり審議会 議事録

日時 令和5年(2023年)8月22日(火)
18:00~20:00

場所 あいこうか市民ホール練習室3

出席者 委員 今西委員、梅本委員、原委員、山之内委員、福井委員、瀬古委員
大野委員、河尻委員、早川委員、今野委員
以上10名
事務局 教育委員会事務局 立岡教育長、柚口部長、松下次長
社会教育スポーツ課 伊東課長、岡崎参事、上村課長補佐、藤田主査

傍聴者 なし

審議会委員12名のうち、10名が出席であることから、甲賀市文化のまちづくり審議会規則第3条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

1. 開会

あいさつ 大野会長

2. 協議事項

大野会長 あいさつ後、議事進行

(1) 「甲賀市文化芸術振興条例(仮称)」の制定について(諮問)
(資料1)

事務局から、これまでの経過と概要説明のうえ、立岡教育長から大野会長へ諮問。

(2) 文化芸術に関する条例の制定に向けて協議

① 前回の会議で意見された、JR草津線の文化芸術の活用について
このテーマから、甲賀市らしさについて協議

貴生川駅から東にある駅についての説明

甲南駅、寺庄駅、甲賀駅、油日駅は市の公共施設であり、減便が課題となっている。
貴生川駅南側の再開発に向けて社会実験が9月から始まり、利用者の募集も行われる。
(事務局)

貴生川駅の南側が何もないのもったいないと思っていた。
滋賀県歌人協会に関わって春と秋に短歌大会を実施しており、短歌が展示できればよい。
(委員)

- ・（短歌の展示を受けて）図書館の価値を再確認しようとしているところである。図書館は、読むだけでなく、情報発信ができる場所。図書館によっては展示スペースがあり、短歌の展示は活用できる内容である。
（事務局）
- ・信楽から歌木簡が発見された後、短歌の募集が行われていたことがあった。
（委員）
- ・歴史的な価値を現代にしっかり受け継いでいくことが文化になる。
（事務局）
- ・潜在的に何かやりたいという人や、発表の場がないという人、滋賀県出身者などに、広報を通じて呼びかけて、活用場所が使われ、生きてくるようになればよい。
（委員）
- ・甲南駅から東は、電車が1時間に1本であり、タクシーも駅前にないことがある。乗り鉄は1時間に1本でも、その空き時間を楽しもうとする。待ち時間を有効活用できないだろうか。
（委員）
- ・平成29年に、忍者と信楽焼が日本遺産に認定された。駅という価値だけでなく、駅から目的地への道中が楽しめるようにするには、文化の視点でいくのか、観光の視点でいくのか、今後議論があつてよい。
（事務局）
- ・商業スペースで絵画の展示などを見かけるが、飾って終わりでは素通りされているように感じられる。そこに誰かがいてコミュニケーションができるような場になるとよい。そのような丁寧な部分が、訪れる人にとってまちの評価にもつながったりする。
（会長）
- ・忍者を広めたいというのはどういうことなのか。
（委員）
- ・観光の立場では、たとえば忍者の場合は、興味を持ってもらい、文化を知ってもらい、観光客を増やしたいと考えている。
（委員）
- ・忍者のことを正しく知ってほしいこと、それが忍術研究会のみなさんの意思だと感じている。また、歴史学者の磯田道史さんが、講演で甲賀の地に何度でも来たいとおっしゃっていた。手つかずになっている価値ある資料が、甲賀市には豊富にあるそうだ。
（会長）
- ・信楽焼や、ほかにも歴史的な価値が豊富にあるまちが、甲賀らしさともいえる。今の時代に生きている私たちが、文化や芸術の価値として見出していくことを各分野でしていけると、アイデンティティが発生していくのではないかと。
（事務局）

- ・信楽で陶芸をやっているが、作品が作られていく過程に興味を持ってもらうことが多い。作品の制作過程が紹介される映像のようなものが駅にあって、そこから情報を得て案内があり、現物に出会えるようなものがあるとよいかもしれない。
(委員)
- ・共有、共感の場になってほしい。
(会長)
- ・駅に限らず、他にもプラットフォームのような場所で共有、共感できるようにするのは大事なこと。
(事務局)
- ・作者本人の言葉や思いが入っていると、共有、共感が生まれると思う。
(委員)
- ・SNS 上での共有、共感だけでなく、交通の便を乗り越えるような、スローライフに思いを語り、人柄が感じられるようなものから、このまちらしさにつながるのではないか。
(会長)
- ・何かを一緒にやろうとまとまっても、それを発信することができていないし、むずかしい。
(委員)
- ・やりたい人がたくさんいるまちだと思うし、多くの人材が出会えるきっかけを作ってくれるのが行政の役割だと思う。
(委員)

② ヒアリングについて

8月上旬に、甲賀市と近隣の高校演劇部が集まる高校演劇発表会があり、この機会に文化芸術に関する条例制定に向けてのヒアリングアンケートを配布した。アンケートの結果を会長から紹介し、高校生の視点を踏まえ、甲賀らしさを協議した。

- ・地元の良さは、外に出て気が付くことがある。たとえば、栃木県の人からやまなみ工房を教えてもらったことがある。
また、何もないという心配はないが、有効活用ができていないということはある。
(会長)
- ・貴生川エリアプラットフォームについて、若い人たちに聞いてみると、田舎らしさがよいという意見と、もっとおしゃれなまちになってほしいという二つの意見に分かれており、葛藤がある。このプロジェクトに関わっている大学生の一人は、駅の利用者だけでなく、地域の人が利用できる場所になってほしいと思っている。
(委員)
- ・おしゃれの意味合いが、どういうものなのか。取って付けたようなものではなく、クオリティが高いのがよいのか、オリジナルが大事なのか、いろいろな見方がある。
(委員)
- ・信楽で、ある俳優のファンミーティングがあったとき、来ていた女性が、信楽はおしゃれなところだと言っていた。
(委員)

- ・ショッピングモールでブランドものがたくさんあるおしゃれではなく。
(会長)
- ・一方で、甲賀市には、甲南のやまなみ工房のように、福祉の視点から生まれたブランドがある。
(事務局)
- ・グループホームなど、先駆的なことをしてきたのが信楽で、かつては全国から視察に来られたこともあった。田舎ではあるが、古いものが残っていて、今風にアレンジして使っていくとおしゃれになる。
やまなみ工房の作家が、いま、近江八幡にある、グローのギャラリーNOMAで展覧会をしているが、日々パソコンで作品を作っている様子を、展覧会場にリアルタイムに映像でつないで観られるようにしており、結構反響がある。
(委員)
- ・作品を作る過程を知るとは、作家自身を知ることにもつながり、より作品が楽しめる。
(委員)
- ・そういう、人に出会うための情報発信が駅でもできると良いのではないかということにつながる。
(会長)
- ・以前に、コミュニティのゲームを行うイベントが信楽であって参加したが、まちの中でどのようにコミュニティを成立させていけるかというゲームで、とてもおもしろかったが、そこに来ている人たちもとても興味深かった。その時はゲームに夢中になって話すことができなかったので、後日話し合う場を設けてもらったが、それがまたおもしろかった。あるワークスペースをどのように活用するかという話題になって、ある人が、人のマップを作りたいと言って、こういう特徴のある人や、困った時などは、どこに行けば会えるというもので、その人の許可はもちろん必要だが、地域のコミュニティの中でおもしろいことだなと思った。地域の中だけでなく、広げれば観光にも通じていける。物や作品についてもだが、人にフォーカスし、リアルにつながっていく。
(委員)
- ・きょうのテーマは何の協議だったのかというのが正直なところで、もっとしぼった協議にすべき。
(委員)
- ・発信としての駅は核になってくる。
高校生のアンケートについて市外の高校生いるが、これについてももう少し聞きたい。
(委員)
- ・このアンケートは、文化芸術の分野で部活をしている高校生にしぼって取らせてもらった。高校の場合、地元の学生が地元の学校へ通う場合もあれば、他市の学校へ通う場合もある。また、地元以外の学生が甲賀市の学校へ通っている場合もある。これからの時代の担う人たちの考えや意見を知り、取り上げていくことが、以前から審議会でも話しが出ており、高校演劇の催しで一同に集まれる機会を活用してアンケートを取らせてもらった。
(事務局)
- ・高校生に限らず、中学生の文化芸術関係のクラブにも聞く機会が必要であれば情報として集めていきたい。また、こんにちまで議論していただいた素案や解説をもとに「甲賀市らしさ」を考えたときに、どういうテーマがあるのかと考えたときに、前回の会議で意見が出た「駅」が、文化や芸術の発信拠点の要素があるのではないかとのことから、日々の暮らしの中で、どのような甲賀市らしさがあるのかをご協議いただくのがきょうの会議であったが、その点が冒頭で十分にお

示しできておらず、申し訳なかった。いただいたご意見の中では、共有、共感をどのように行動に結び付けていくのか、また、リアルなつながりの大切さや、福祉と障がいのある方の文化芸術の関係性が、素案の中には入っていない点もあるので、次回には、きょうのご意見を積み上げながら、より良いものにしていきたい。

(事務局)

- ・以前、栃木県に住んでいたことがあるが、甲賀から来たというと、甲賀なら忍者と言われたことがあった。そのぐらい忍者は浸透している。また、忍者を観光と深く学ぶという二つの視点で議論があったが、その後、話題が広がりすぎてしまったかもしれない。

甲賀市は、忍者、信楽焼だけでなく、三大囃子ともいわれる水口囃子もある。全国的に知られるものがいくつもあるが、それがうまく発信できていないのがもったいないと感じる。それをつなぐのが駅ではないかと思う。それをつなぐのは民間ではむずかしいので、行政がうまく持って行ってほしいと思う。

(委員)

- ・条例制定時期の目標について再度共有したい。

(会長)

- ・前回の資料で再度ご説明させていただくが、来年の1月に答申をいただき、3月にパブリックコメントを実施し、令和6年の9月に条例案を提出する。

(事務局)

(その他)

委員から話題提供

- ・観光PR大使の吉幾三ミニコンサートの紹介（10月21日開催 忍の里プララ）

事務局から報告

- ・水口中学校と城山中学校の吹奏楽部が滋賀県代表として関西コンクールに出場。水口は銀賞、城山は銅賞を受賞。

閉会

福井副会長 閉会あいさつ